

2019年3月期 決算説明会

 **焼津水産化学工業株式会社**

2019年5月20日

おかげさまで



本日の内容

- ① 2019年3月期 業績概要
- ② 前中期経営計画の振り返り
及び
新中期経営計画の概要
- ③ 2020年3月期 業績見通し

① 2019年3月期 業績概要

2019年3月期 連結業績概要

(単位：百万円)

	連結				
	2018年 3月期	2019年3月期		前期比	計画比
		計画	実績		
売上高	15,810	16,000	16,458	+647 (+4.1%)	+458 (+2.9%)
営業利益	996	900	875	△120 (△12.1%)	△24 (△2.7%)
営業利益率	6.3%	5.6%	5.3%	△1.0pt	△0.3pt
経常利益	998	900	889	△109 (△10.9%)	△10 (△1.2%)
当期純利益	605	500	512	△92 (△15.3%)	+12 (+2.5%)
ROE	3.1%	2.7%	2.6%	△0.5pt	△0.1pt

＜連結売上高＞

機能食品で販売苦戦があったが調味料及び水産物の販売が伸長し前期比+647百万円の増収

＜連結営業利益＞

原材料価格の上昇や物流費、人件費の増加が影響し前期比で△120百万円、営業利益率は6.3%⇒5.3%と1.0ptダウン

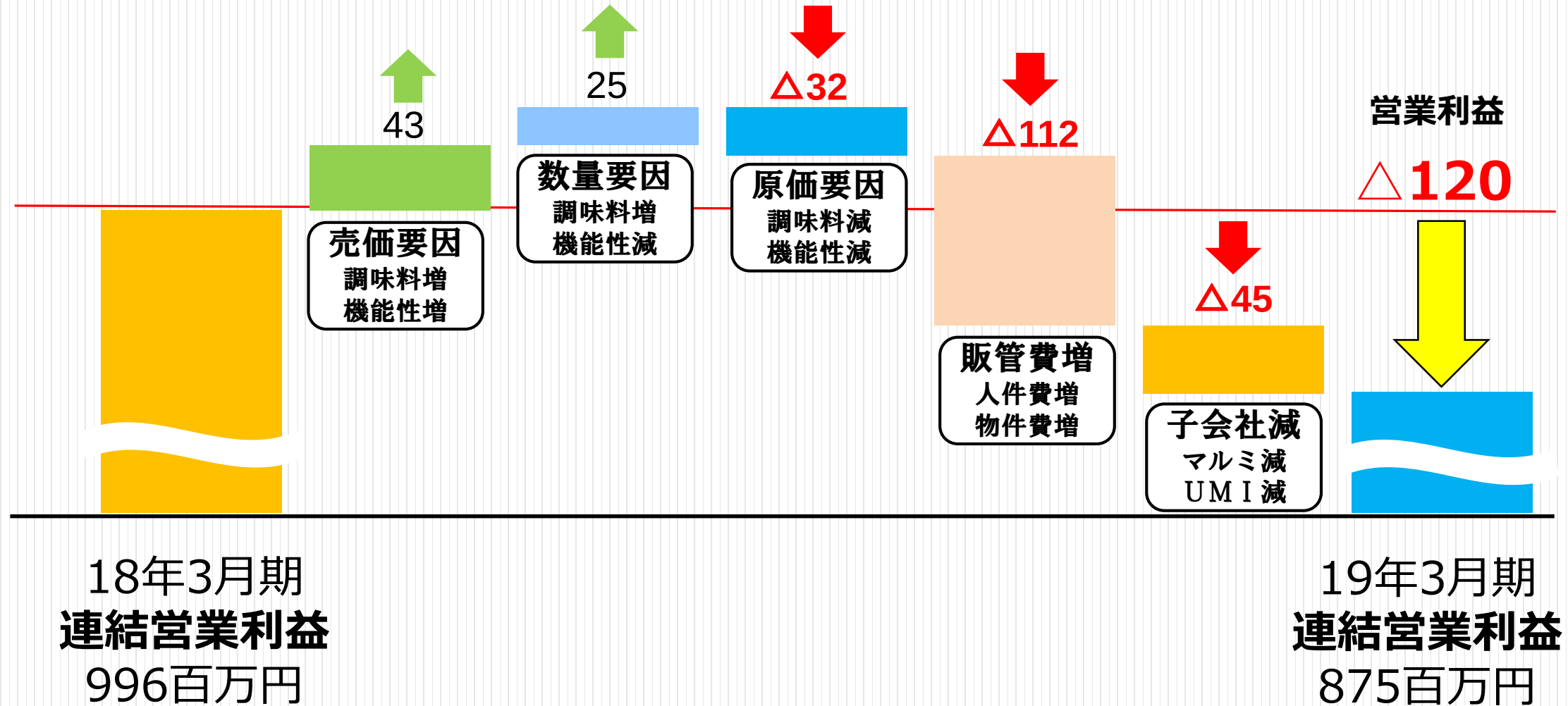
＜連結当期純利益＞

台風被害による特別損失や低稼働となった一部資産の減損損失を計上したこと等により前期比△92百万円（△15.3%）の減益

ROEは前年比△0.5ptダウン

2019年3月期 連結営業利益 増減要因

(単位：百万円)



セグメント別 売上高

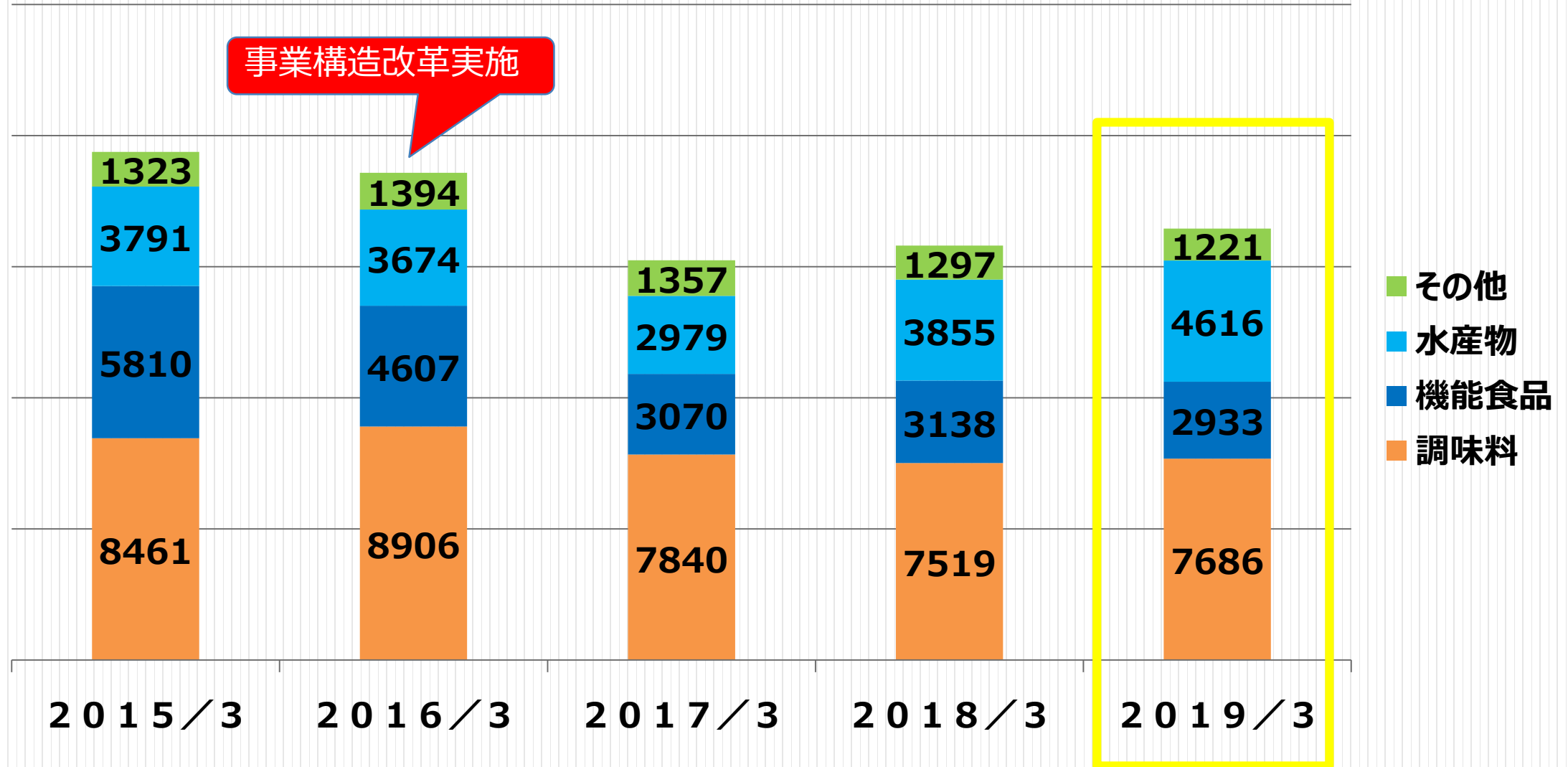
(単位：百万円)

	18/3期	19/3期	
	売上高	売上高	前期比
調味料	7,519	7,686	+167
機能食品	3,138	2,933	△204
水産物	3,855	4,616	+760
その他	1,297	1,221	△76
合 計	15,810	16,458	+647

- ①調味料は、香辛料が減少したが液体調味料、粉体調味料が伸長し+2.2%
- ②機能食品は、アンセリンの売上が増加した一方、主力のN-アセチルグルコサミン等が減少し△6.5%。
- ③水産物は、OEM加工製品販売が大幅に伸長したほか外食向け寿司用製品の販売が堅調に推移し+19.7%
- ④その他は、その他製品の販売が減少し△5.9%

セグメント別連結売上高推移（2015年3月期～2019年3月期）

（百万円）



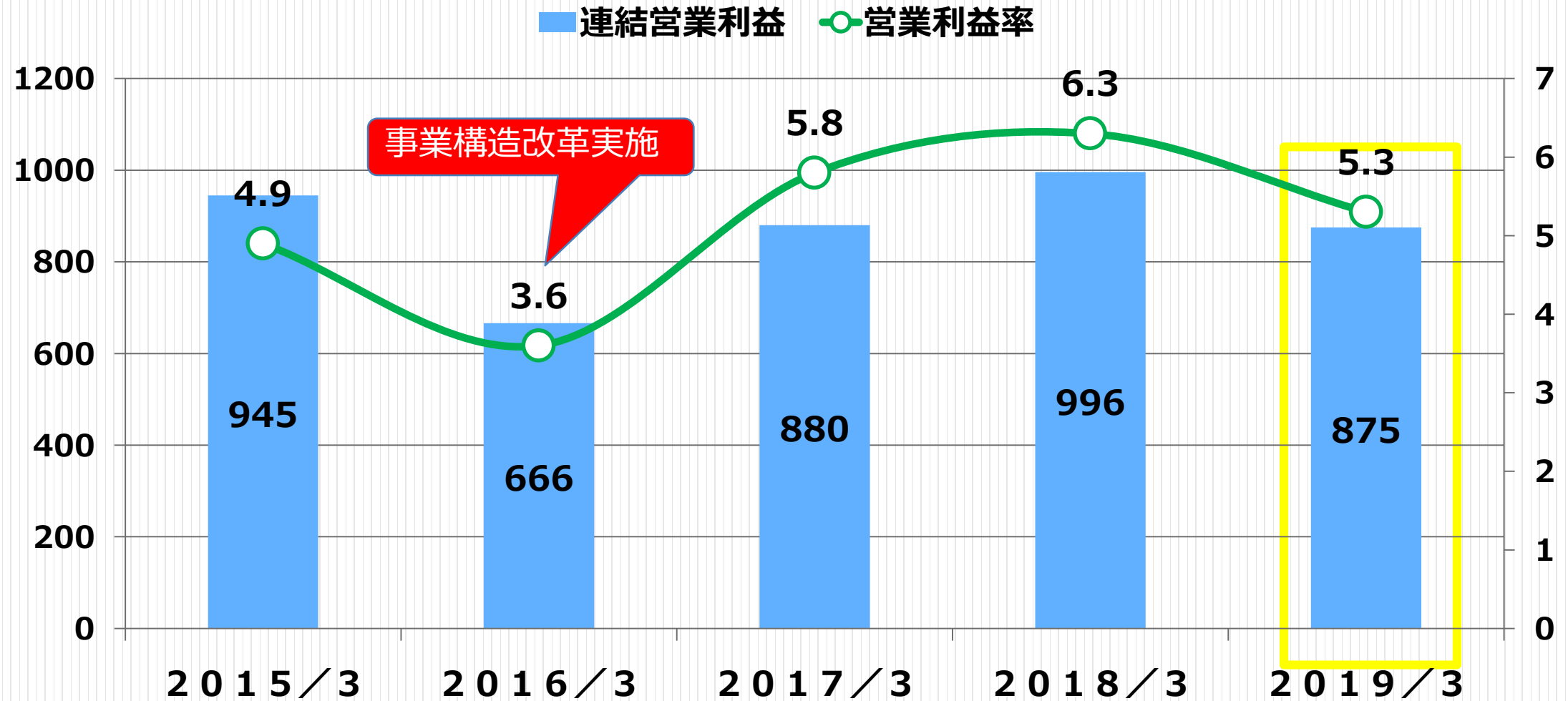
セグメント別 営業利益

(単位：百万円)

	18/3期	19/3期	
	営業利益	営業利益	前期比
調味料	848	844	△3
機能食品	648	585	△62
水産物	33	17	△16
その他	80	39	△40
全社	△613	△611	+2
合 計	996	875	△120

- ①調味料は、原材料価格の上昇や物流費、人件費等の増加により△0.4%
- ②機能食品は、売上の減少により△9.7%
- ③水産物は、製造経費、運賃等販売経費の増加により△49.7%
- ④その他は、化粧品通販の新商品投入に係る広告宣伝費等の増加により△50.1%。

連結営業利益推移（2015年3月期～2019年3月期）



2019年3月期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

		18/3	19/3	増 減	主 な 内 容
資産の部	流動資産	14,367	14,814	+446	現金及び預金 +104 受取手形、売掛金 +130 たな卸資産+170
	固定資産	8,652	8,135	△517	建物及び構築物 △155 機械、運搬具 △183 投資有価証券 △163
	資産合計	23,020	22,950	△70	
負債・純資産の部	流動負債	2,804	2,822	+18	未払法人税等△175 未払消費税等△59 支払手形及び買掛金+222 短期借入金 +40
	固定負債	442	404	△38	繰延税金固定負債 △44
	純資産	19,773	19,722	△50	利益剰余金 +214 自己株式△151 その他有価証券評価差額金 △113
	負債・純資産合計	23,020	22,950	△70	

② 前中期経営計画の振り返り 及び 新中期経営計画の概要

**前中期経営計画の振り返り
2017年3月期～2019年3月期
(第58期～第60期)**

「 YSK Priority 」

前中期経営計画 「YSK Priority」

2017年3月期～2019年3月期（第58期～第60期）

経営ビジョン

• 水産系天然素材メーカーN o.1へ

重点施策

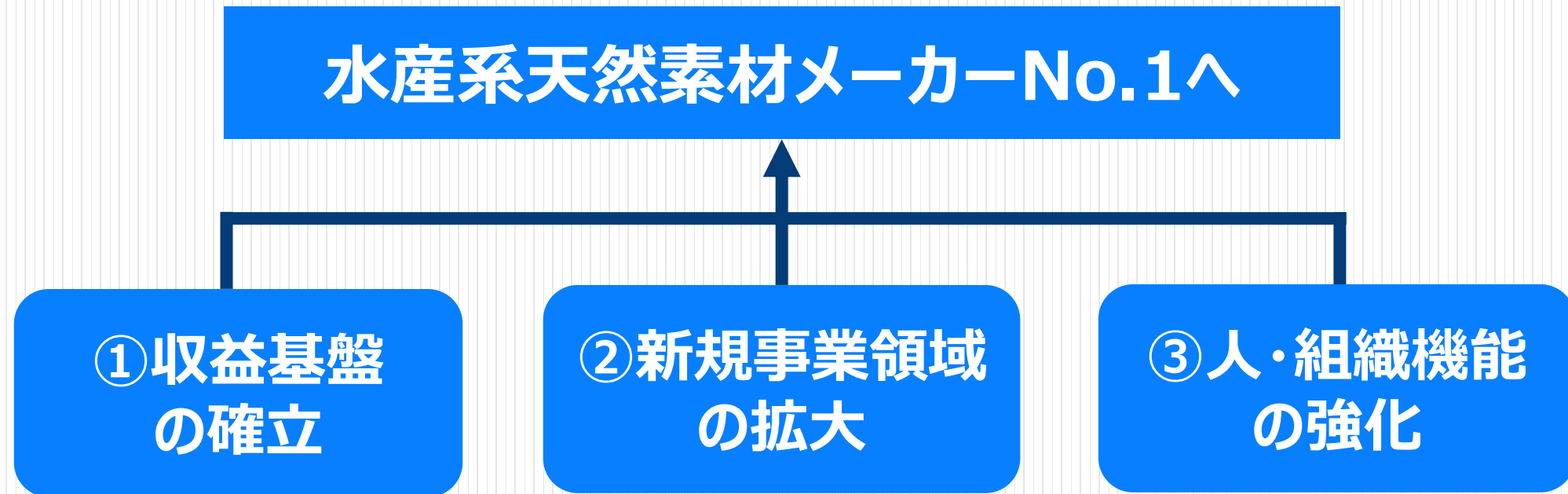
• 収益基盤の確立 新規事業領域の拡大 人・組織機能の強化

経営目標

• Y S Kグループ：連結売上高170億円、連結営業利益12億円

前中期経営計画「YSK Priority」の重点施策

3つの柱に経営資源(人・物・金)を集中投入し、成長戦略を描く

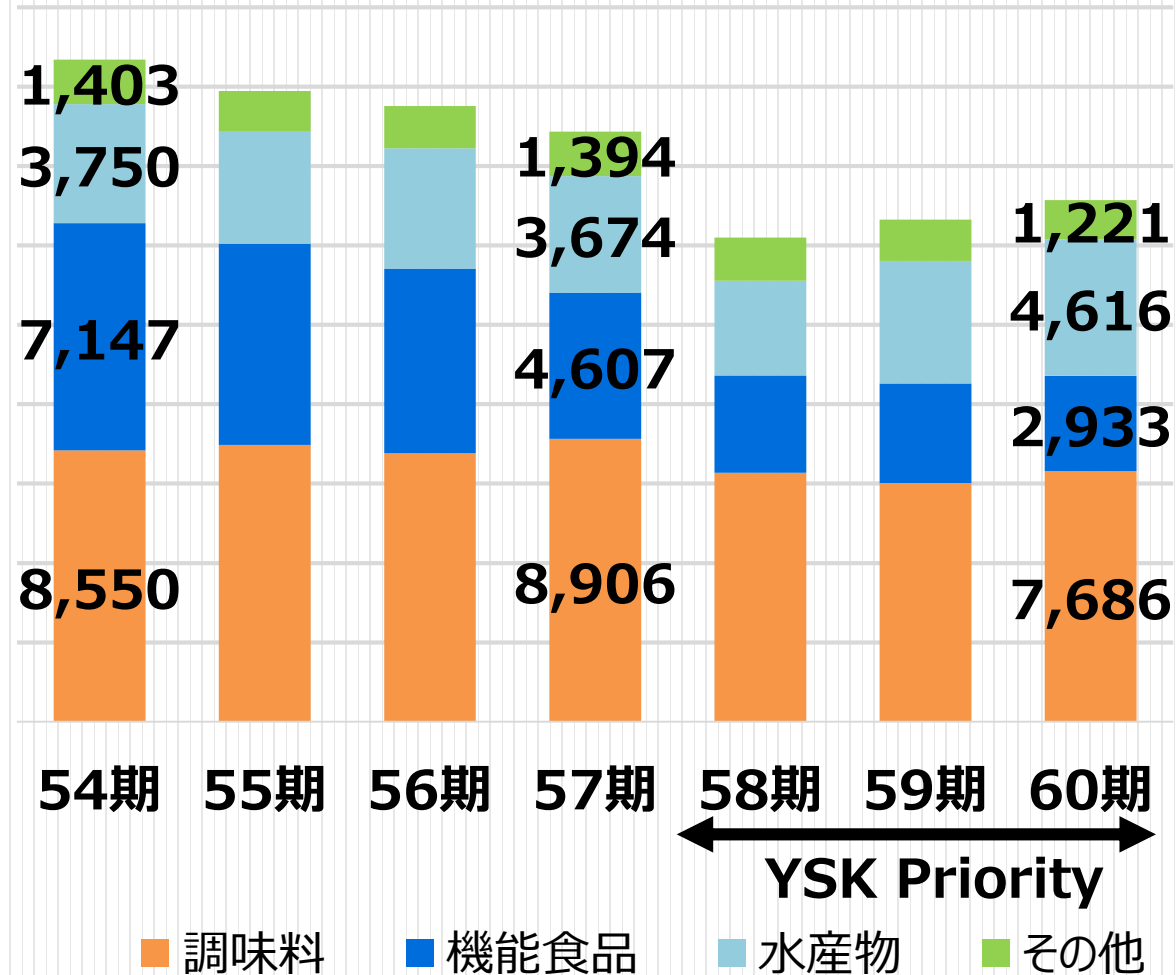


**企業理念：天然素材の持つ無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献します**

【連結】セグメント別の推移

(百万円)

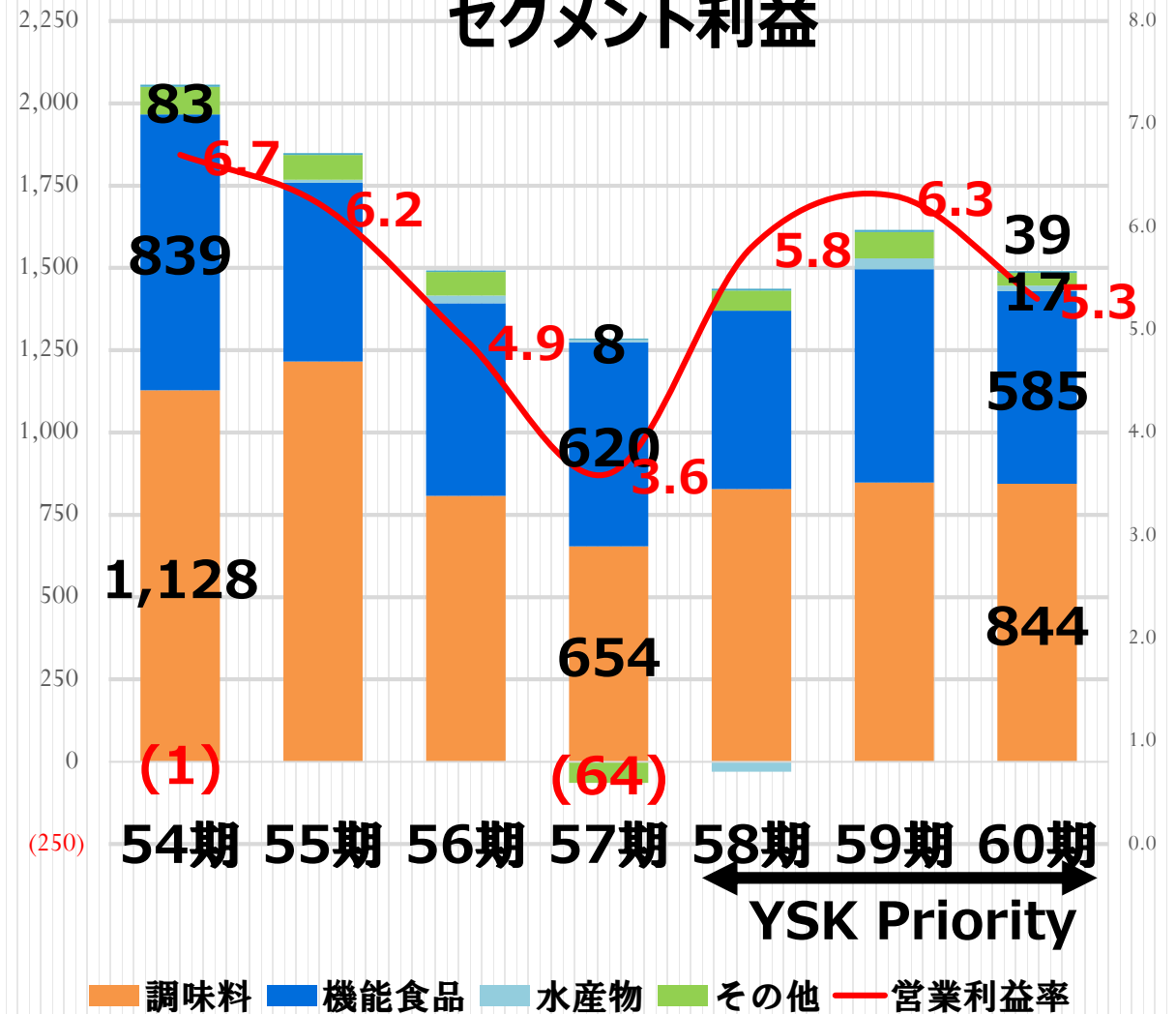
売上高



(百万円)

※セグメント利益は全社配賦不能額調整前の金額です。

セグメント利益



収益体質への変化と強み分野への集中により、売上高、利益は増加傾向

< 新中期経営計画 >

Create Next YSK

2020年3月期～2022年3月期（第61期～第63期）

現在

前中期経営計画
「YSK Priority」

YSKの強みに集中できる体制を構築

築いてきたものを土台に
変革と創造で
未来のYSKへ

環境分析

- 国内外のGDP成長率（ASEANの成長）、人口動態（高齢者比率の増加・ASEAN、中国とも）
- 社会変化（労働人口の減少、多様な働き方）、技術の進歩（AI、IoT、ビッグデータ、クラウド）
- 市場規模（2006年比%） 内食32.5兆円（106.4%）中食9.6兆円（122.6%）、外食25.1兆円（102.6%）
- 顧客像の変化 社会構造の変化で「簡便、即食、個食」のニーズが顕在化
- 天然原材料の需給動向 世界的な水産資源の需要増で原料調達は年々困難に（異常気象・乱獲も影響）

3年経営ビジョン

First stage

継承
すべき
企業価値

- ・当社企業理念
- ・これまで培ってきた強み

安心安全体制の進化
供給体制の進化

“おいしさ”と“健康”で価値創造フィールドを拡大し、

顧客に支持される食品メーカー

挑戦によ
り掴み取る
企業価値

- ・顧客視点による販売スキーム
の刷新
- ・原料/製品供給体制の強化

- ・新規顧客
- ・新規製品
(川下・水産以外含め)
- ・海外展開

First3 基本戦略

“おいしさ”と“健康”で価値創造フィールドを拡大し、
顧客に支持される食品メーカーへ

国内調味料

国内機能性

海外展開

新たな事業分野
創出

差別化とフィールド拡大
による成長

海外事業の
ステージアップ

新規事業育成

経営基盤の強化戦略（情報システム、人事・総務、財務）

開発機能の強化戦略（10年スパン）

新中期経営計画 定量目標

(単位：百万円)

	2019年3月期 (実績)	2022年3月期 (目標)	増減
連結売上高	16,458	17,000	+542
連結営業利益	875	1,100	+224

③ 2020年3月期 業績見通し

2020年3月期 連結業績予想（概要）

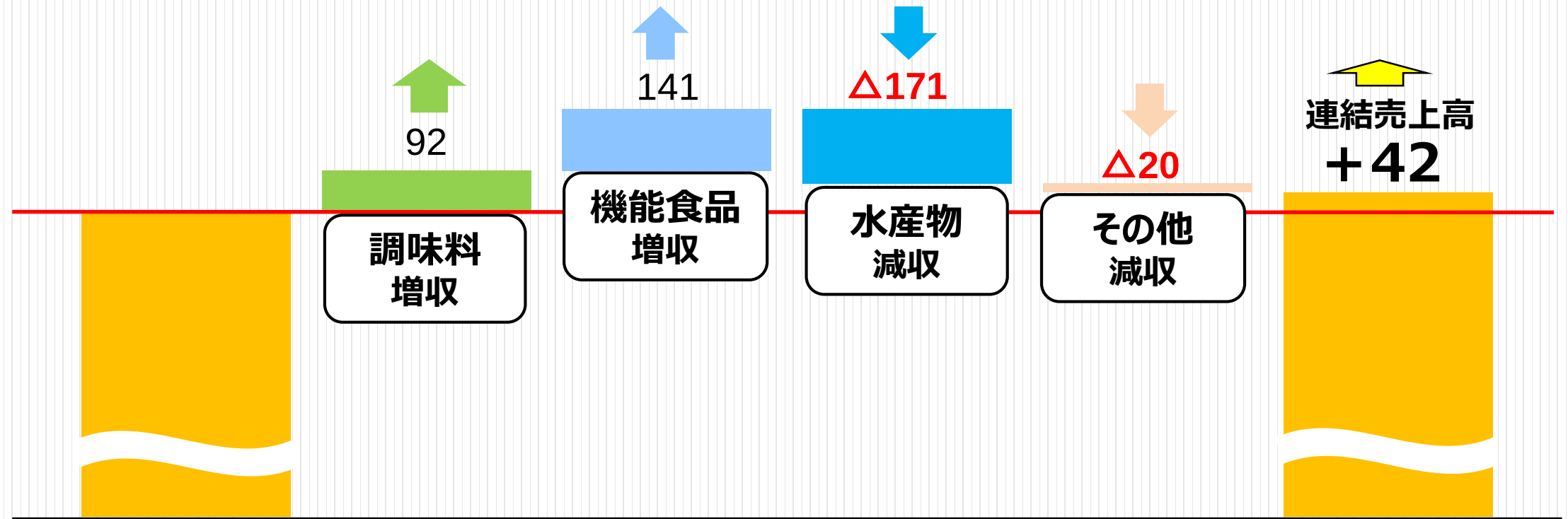
（単位：百万円、％）

	2019年3月期（実績）			2020年3月期（計画）					
	上期	下期	通期	上期計画	前年同期比	下期計画	前年同期比	通期計画	前年同期比
売上高	7,716	8,741	16,458	8,000	284	8,500	△241	16,500	42
営業利益	341	534	875	250	△91	500	△34	750	△125
営業利益率	4.4%	6.1%	5.3%	3.1%	△1.3pt	5.9%	△0.2pt	4.5%	△0.8pt
経常利益	354	535	889	250	△104	500	△35	750	△139
当期純利益	223	289	512	150	△73	350	61	500	△12
ROE			2.6%					2.6%	

※ 2020年3月期は新中期経営計画の初年度として、工場設備投資、研究開発投資、システム投資、通販広告投資を積極的に実施していく。

2020年3月期 連結売上高 増減予想

(単位：百万円)

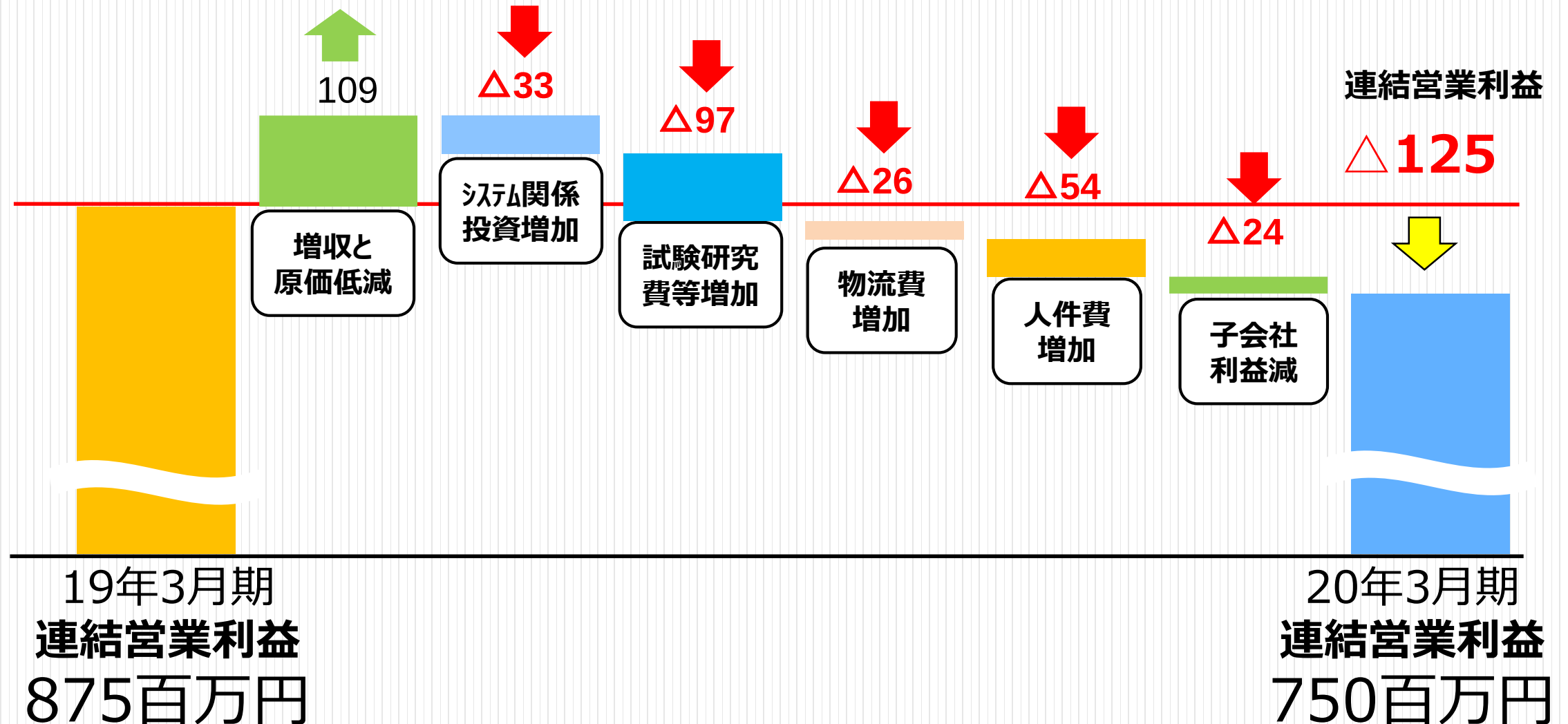


2019年3月期
連結売上高
16,458百万円

2020年3月期
連結売上高
16,500百万円

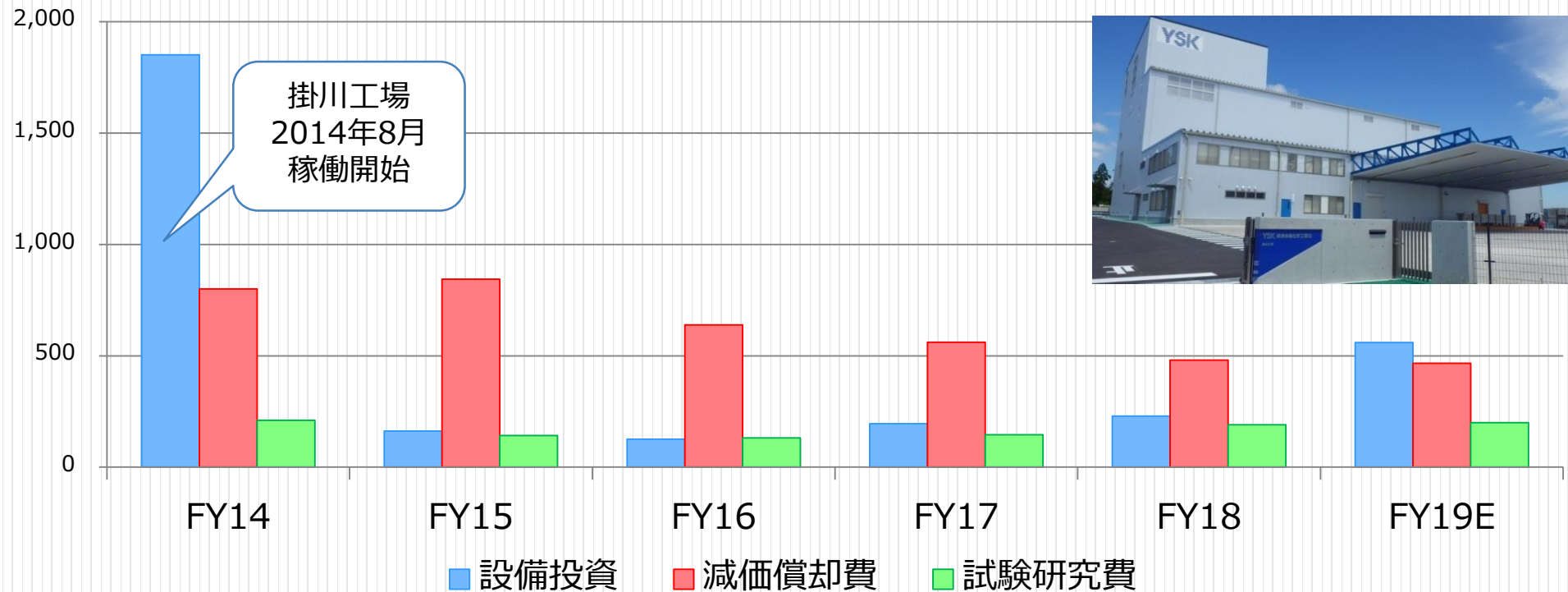
2020年3月期 連結営業利益 増減要因

(単位：百万円)



2019年3月期 設備投資、減価償却費、試験研究費

(単位：百万円)

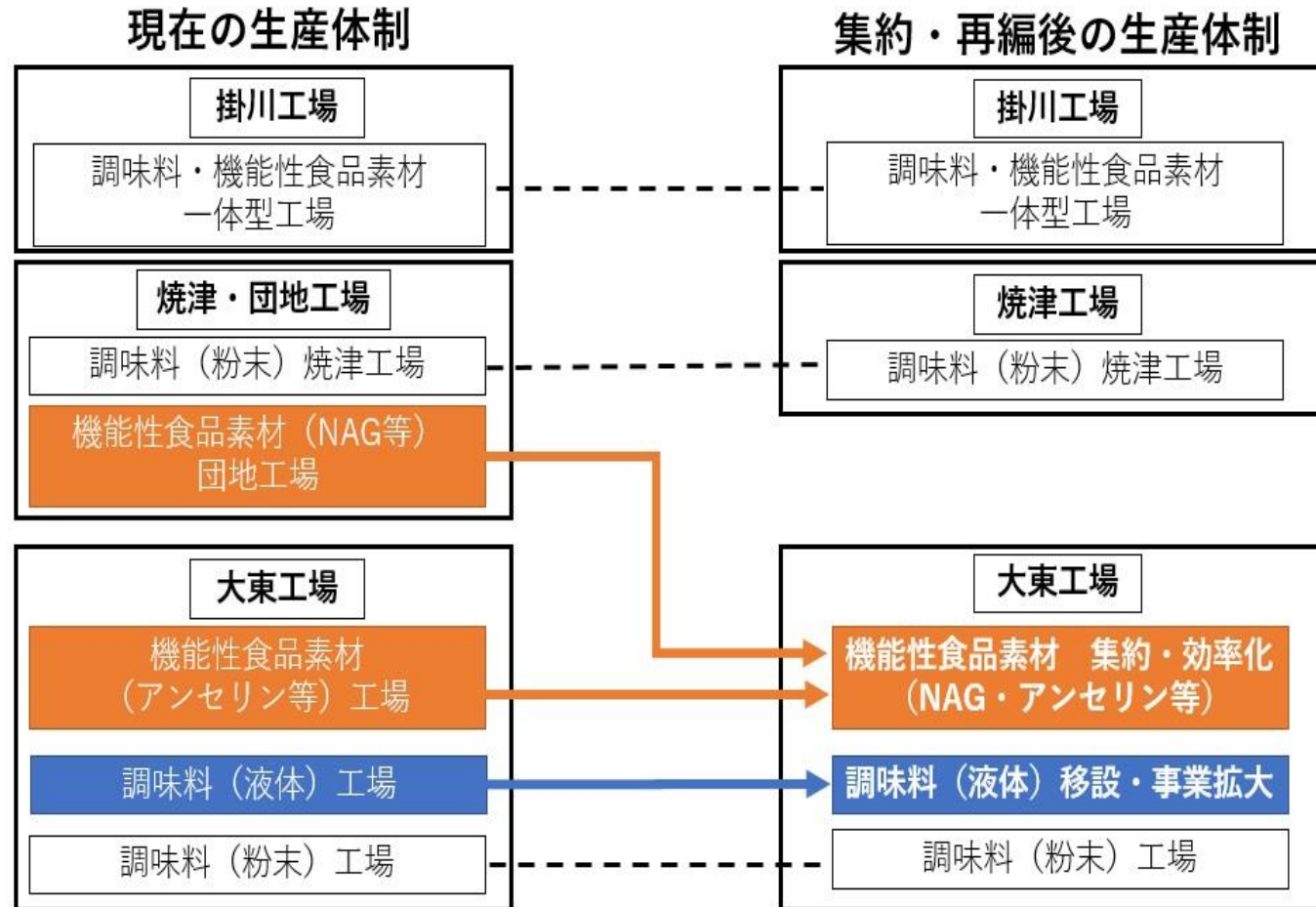


	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19E
設備投資	1,851	162	126	195	229	560
減価償却費	800	844	639	561	480	466
試験研究費	210	142	132	146	191	300

※工場生産体制の集約と再編について、2019年5月10日付けニュースリリースにて概要を発表しました。

工場生産体制の集約と再編について

工場集約・再編の概要



大東工場



※工場生産体制の集約と再編については、投資総額約19億円、2019年10月着工、2021年上期完工予定です（掛川工場、焼津・団地工場、大東工場はいずれも静岡県内）



焼津水産化学工業グループは
天然素材の持つ
無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して
豊かな生活に貢献します。

注意事項

当資料には計画や見通し等が含まれています。こうした記述は、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものです。将来の業績、経営方針などは、環境等の変化に伴い、変化があることをご留意ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等につきましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。

IR問い合わせ窓口

焼津水産化学工業株式会社
経営企画部 IRグループ
電 話：054-202-6030
F A X：054-202-6031